

**ショートショートフィルムフェスティバル 2020 が只今オンラインで開催中！** 今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、世界 110 以上の国と地域から集まった約 5000 作品の中から厳選された約 200 作品が無料でオンライン上映されています（一部有料イベントもあり）。赤十字も特設プログラムとして「戦争と生きる力 supported by 赤十字」をテーマにした 12 作品を [上映中](#)。今回の赤十字ニュースでは一部作品の紹介と本プログラムの魅力についてご紹介します。

## ■ 「余白」を想像する — 「ショートショート」の魅力

今回のプログラムの横断テーマは「戦争と生きる力」。そう聞くと厳しい戦禍の中でも懸命に生きようとする力を描いたラインナップですか？と想像する方もいるかもしれませんが、戦争の現実決してそう簡単に美化できるものではありません。まずは先入観を抜きにして向き合ってみることをお勧めします。以下 3 作品をご紹介します。

### ① 「ホーム」(9分40秒/シリア/ドラマ/2019)

シリア内戦下の紛争地で不発弾などの鉄くずを物々交換して生活の糧を得る少女の日々を描いた「ホーム」。主人公は 8 歳の少女サラで、この作品が作成されたのは 2019 年。シリア紛争が始まったのは 2011 年ですので、サラはほぼ紛争という現実の中に生を受け、日常を送ってきたこととなります。本作品の解説には「手榴弾と手袋との交換が劇的な状況を生むことに」とありますが、10 分ほどの映画では圧倒的な破壊行為の爪痕が残された街—サラにとっての「ホーム」—を歩くサラがどんな

結末を迎えるのか、シリア紛争への理解を抜きにして、その世界観に一気にもめりこまれます。なお、東日本大震災の発生も 2011 年ですが、シリア紛争は今もなお予断を許さない状況が続いています。



「ホーム」

8歳の少女サラは紛争で荒廃した街で、武器を拾い食料や衣服と交換しながら孤独に暮らす。ある日、交換した手榴弾が…

### ② 「ウタズメ」(11分43秒/デンマーク/アニメ/2019)

国境を超えるために冷凍車の冷凍庫に密集して乗り込む移民の人々。冒頭は新天地に向かう希望に満ちたシーンで始まりますが、徐々に寒さに耐えきれず、絶望的な状況に…鼻歌交じりで運転するドライバーの明るさとのコント

ラストが印象的です。特定の国を描いたものではなく、かつ人形劇という手法で描かれているので、紛争地の厳しい現実と遠く離れた国で過ごす私たちの間にあるような「想像力の壁」を想起させるものがあります。なお、世界的な気候変動の影響により今後 30 年間で 10 億人以上の人が今の居住地に住めなく

なるとする研究もありますが、本作品はマスの数字では想像できない移民・難民問題の厳しい現実のイメージを強く駆り立てます。

出典：CNN「気候危機の脅威、2050年までに12億人が移住余儀なくされる事態に」(2020年9月11日) <https://www.cnn.co.jp/world/35159462.html>



#### 「ウタスズメ」

よりよい生活を求め冷凍トラックに乗り込む人々。その過程で悲惨な状況に巻き込まれていく様子を人形劇で描く

### ③ 「HOPE」(1分49秒/ICRC/2018)

副題は「Why we can't save her life - 希望：彼女の命を救えなかった理由」ここで解説の言葉を費やすより、実際にご覧いただく方が早いかもしれません。題名とは裏腹に、希望が断たれる結末で幕を閉じるショッキングな作品です。ところでこの作品自体は2018年に「Health Care in Danger - 紛争下の医療の危機」として赤十字が始めたキャンペーンの一環として作成されました。国際人道法で保護されるはずの病院や赤十字などの人道支援従事者が故

意に攻撃の対象とされる事例が頻発しており、そうした事態へ警鐘を鳴らしている作品です。



#### 「HOPE (希望～彼女の命を救えなかった理由)」

戦闘に巻き込まれて致命傷を負った娘を病院に運ぶ父親。だが、紛争地の医療インフラは壊滅状態に追い込まれていた

## ■ モヤモヤ感を残し続けてほしい

「ショートショート」という余白の部分が多い作品だからこそ、イメージを喚起する力に優れているのが本プログラムの何よりの魅力。そしてどの作品にも共通するのが、人間ならだれもが感じる苦しみや痛み、悲しみと言った「感情」とそれへの「共感」。懸命に生きる力が素晴らしい、といった安易な受け止めではなく、心に残るモヤモヤ感をそのまま受け止めていただき、背景にある問題への関心をぜひとも持ち続けていただければ嬉しく思います。

「住んでいる場所が違うだけ、生まれてきた国が違うだけで、生きるための営みは何も変わりません。作品に登場するさまざまな境遇の人たちの人生や想いに触れることで、身近な人を思いやり、助け合うことの大切さを感じてもらいたい」

(-「戦争と生きる力」案内文より)

ショートショートフィルムフェスティバル&アジア 2020

9月16日(水)～9月27日(日)

オンラインで開催

全プログラム視聴料無料

<https://www.shortshorts.org/2020/ja/program/wp-1.php>